HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 北海道大学免疫科学研究所集談会記録 |
| Citation | 北海道大学免疫科学研究所紀要, 38, 75-76 |
| Issue Date | 1978-03 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/26514 |
| Type | departmental bulletin paper |
| File Information | 38_P75-76.pdf |

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

# 北海道大学免疫科学研究所集談会記録

**第24回** (昭和52年1月11日)

皆川知紀： 麻疹を中心としたウイルス感染症の免疫.

**第25回** (昭和52年2月8日)

木村卓郎： 金属酵素について. とくに抗体の作用機作の面から.

関川　勲： BYU留学報告.

**第26回** (昭和52年3月8日)

佐々木昭雄： The Role of Phospholipids in Lymphocyte Activation.

文献： Klaus Resch and Ernst Ferber: in Immune Recognition, edited by A. S. Rosenthal, p. 281, Academic Press, 1975.

堀川正己： ラットにおけるアルドラーゼ保有細胞の同定法.

**第27回** (昭和52年5月17日)

奥山春枝： 大食細胞の分泌機能と慢性炎症の病理発生との関連性について.

文献： Davies, P. and Allison, A. C.: in "Immunology of the Macrophage" ed. by Nelson, p. 427, Academic Press, N. Y. 1976.
Dannenberg, A. M.: New Eng. J. Med., **293**, 489, 1975.

**第28回** (昭和52年7月12日)

長沢滋治： 補体系のプロテアーゼの活性化と制御.

**第29回** 研究報告会 (昭和52年9月13日)

1. 小幡文弥： 金属含有量の異なるコンカナバリンA.
2. 佐藤　昇・塩川洋之： アデニレートキナーゼの免疫化学的研究.
3. 高沢俊英・塩川洋之： クレアチンホスホキナーゼのIEFによる結果.
4. 小野寺昌彦・田中恭介： 抗MANS抗体：免疫経過による抗体部位構造の変化及びIEFを用いた研究.
5. 水野佑亮・E. Ribi他： エンドトキシンによるモルモットL-10腫瘍の退行.
6. 坂井留女・塩川洋之： 近交系モルモットのABA-Tyr=CFA系に対する応答.
7. 外岡秀一・笹原靖彦・佐々木昭雄： 酵素反応を利用したNADアナログ類の合成.
8. 西江　純： Pyrazolo pyridine 誘導体の合成.
9. 関川　勲・高橋由美子： ピペリジン環を含む葉酸アナログの合成.
10. 柿本七郎・田代美穂： 2-C-メチルリボースの合成.
11. 柿本七郎・田代美穂： 5-(o-及びp-アミノフェニル)-2,3-ジフェニルテトラゾリューム塩の合成.
12. 三村信輔： Oxazolone 接触アレルギーの研究.
13. 武田純子・奥山春枝： 抗モルモットT細胞血清の作製.
14. 小野江和則・安水良知： リンパ球再循環におけるFcレセプターの役割.
15. 奥山春枝・武田純子： BCG-CWのadjuvant作用.
16. 奥山春枝・大石　勉： In vitroの類上皮細胞形成の試み.
17. 大石　勉： Beryllium granuloma の発生病理.
18. 石原智明・森川和雄： モルモットにみられた熱傷様皮膚症状について.
19. 山本健一・奥山春枝： 近交系モルモットJY1とNo. 13におけるBCG-CWに対する免疫反応の比較.
20. 山本健一・柿沼光明： BCG-CWによるマウス肺granuloma形成の遺伝支配.
21. 岡田昌彦： BCG-CWワクチンに対するgranuloma形成の遺伝支配—radiation chimeraによる実験—.
22. 木村卓郎： Granuloma形成作用と体液性応答の関係.
23. 柿沼光明： A/HeJマウスの抗ARS抗体のidiotype.
24. 佐々木昭雄・有馬　純： ホスファチジルイノシトールマンノシドの免疫化学.
25. 永山能為・柴田正弘： ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応
26. 榑松三郎・久世彰彦： 肺結核初回治療患者における連日検痰成績.
27. 有馬　純・酒井一郎： 化療後喀痰中結核菌の形態と増殖力の変化について.
28. 有馬　純・大平昌好・柴田正弘： 薬剤耐性結核菌の保存性について.

**第30回** (昭和52年10月4日)

小林　博： 癌免疫.

水野佑亮： BCG Cell Wall の Mitogenicity.

**第31回** (昭和52年11月8日)

山本健一： Macrophage の機能の不均一性.

久世彰彦： 肺アスペルギルス症.

**第32回** (昭和52年12月6日)

外岡秀一： Poly (ADP-ribose) に関する最近の研究から.

文献： Y. Kanai et al. Nature, **265**, 175, 1977.

柿沼光明： 免疫グロブリン遺伝子に関する最近の報告から.

# 北海道大学免疫科学研究所業績発表記録

(自昭和51年9月—至昭和52年11月)

**細菌感染部門**

1. 大平昌好・久世彰彦・有馬　純： 結核耐性培地の薬剤力価変動に関する研究.
結核, **51**, 95, 1976.
2. 有馬　純・立花キヨ・高橋昭一郎・大平昌好： スライドカルチュア法によるいわゆる“塗抹陽性・培養陰性菌”培養の試み
結核, **51**, 95, 1976.
3. 佐々木昭雄・立花キヨ・有馬　純： 放線菌類とその近縁菌のホスファチジルイノシトールマンノシドについて.
結核, **51**, 95, 1976.
4. 佐々木昭雄・立花キヨ・有馬　純： ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応 I. 実験条件の検討.
結核, **51**, 95, 1976.
5. A. Sasaki and J. Arima: Phosphatidylinositol Oligomannosides in Some Actinomycetes and Related Organisms.
Jap. J. Tuberc., **20**, 1, 1976.
6. 山本健一： 結核抗菌免疫, 特に BCG Cell Wall による実験を中心として.
結核, **51**, 155, 1976. 結核, **51**, 453, 1976.
7. 佐々木昭雄・有馬　純： 結核菌リン脂質の免疫化学的解析.
結核, **51**, 217, 1976.
8. 永山能為・佐々木昭雄： ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応. 臨床成績—カオリン反応との比較.
結核, **51**, 220, 1976.
9. 佐々木昭雄・有馬　純： ミコバクテリアとその近縁菌のリン脂質について.
結核, **51**, 230, 1976.
10. 山本健一・柿沼光明・東　市郎・E. Ribi： BCG Cell Wall による肺 granuloma 形成機序と結核感染防禦能.
日本免疫学会総会記録, 第6巻, 286, 1976,
11. 有馬　純他： 函館で発生した肺非定型抗酸菌症について.
函医誌, **1**(1), 10, 1977.
12. 山本健一： 感染免疫と生体防衛機構.
大原達編「免疫の科学」, **2**, 461, 1977.
13. 酒井一郎・有馬　純： 化療後喀痰中結核菌の形態と増殖力の変動について.
結核, **52**, 127, 1977.
14. 永山能為・佐々木昭雄： ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応.
結核, **52**, 146, 1977.
15. 山本健一： 結核抗菌免疫における細胞性免疫の関与, 特にアセチル化牛血清アルブミンおよび BCG Cell Wall 感作マウスにおける特異抗原静注によるその解析.
結核, **52**, 146, 1977.
16. 佐々木昭雄・有馬　純： ミコバクテリアおよび近縁菌のリン脂質について (続報).
結核, **52**, 150, 1977.
17. 佐藤俊二・有馬　純他： 難治肺結核に対する EVM の治療成績および耐性の推移.
結核, **52**, 164, 1977.
18. 佐々木昭雄・有馬　純： ミコバクテリアおよびこれらと近縁の菌のリン脂質について.
結核, **52**, 207, 1977.
19. 永山能為・西出鬼一郎・柴田正弘・佐々木昭雄： ガラス板法による結核菌リン脂質の血清反応.
結核, **52**, 207, 1977.
20. 大平昌好・久世彰彦・有馬　純： 結核菌薬剤耐性菌株の保存性について.
結核, **52**, 208, 1977.
21. 有馬　純・小原裕光： エンヴィオマイシンの耐性実験.
結核, **52**, 208, 1977.
22. 阿部政次・有馬　純他： われわれの経験した肺非定